

秋田県総合防災訓練 in にかほ

■防災訓練

9月6日、秋田県総合防災訓練が市内を会場に開催されました。この訓練は県内13市を巡回して行われますので、にかほ市での開催は13年ぶりとなります。また、この訓練は県と市の地域防災計画にもとづき実施され、「災害発生時の応急対応について実践的な訓練を実施することにより、対応力の向上を図るとともに防災意識を高める」ことを目的としています。当日は55機関の800名が参加し、新たなメニューを組み込んだ実践的な訓練が行われました。

もちろん、市は単独での防災訓練を毎年行っています。今回の訓練との違いは規模感です。緊急車両の台数や救助ヘリの出動数などだけを見ても、その違いは明確です。

■訓練の概要

県警・自衛隊・海保・消防等による捜索や救助訓練はもちろんですが、これまで見られなかったDMAT（災害派遣医療チーム…ディーマット）、DPAT（災害派遣精神医療チーム…ディーパーツ）、DWAAT（災害派遣福祉チーム…ディーワット）といった災害派遣に関する専門家チームがはじめて参加しました。また、避難所には、動物愛護センターと動物愛護推進員の皆さんに協力いただきながら、ペット避難のためのエリアがはじめて設置されました。その他にも、災害ボランティアセンター開設・運営訓練や、遺体安置所開設・運営訓練の

実施など、これまでの実際の災害現場で明らかとなったさまざまな課題への対応訓練が組み込まれていました。

■防災意識の変化

今回の訓練想定は、ざっくりと「大雨災害により河川の氾濫や越水、土砂災害が発生し、レベル5緊急安全確保が発令されている最中に、M7.5（最大震度6強）が発生し、建物の倒壊などが起きた」といったものです。

この想定を「ちよつと大げさじゃない？」と多くの人が感じるかもしれません。正直、私も最初「ん？」と思いました。ですが、最近の能登半島や熊本の大地震と大雨災害により、今も多くの人が避難生活を余儀なくされている状況をみれば、今回の想定は決して大げさなものではないと思います。もはや「想定外」は通用しないのです。

近年、人々の防災意識は着実に高まっています。特に、国が自主行動を促すための環境整備をすすめながら国民の行動変容を促す仕組みづくりをしていることもあって、人々の防災意識は「防災Ⅱ行政によるものといった受け身の姿勢」から「防災Ⅲ日常生活の一部として捉える姿勢」へと確実に変化してきています。

■備える

防災のキーワードは「備える」です。それは単に物品の備蓄だけでなく、防災訓練や防災教育といった啓発による動機付けも災害に備えることに他なりません。一度災害が発生すれば被害ゼロはあ

にかほ市長
市川雄次

りえません。誰しもが多かれ少なかれ何らかの被害にあいます。だからこそ普段から、自ら備える（自助）・周囲と協力し合う（共助）・公的支援を知る（公助）について意識的に取り組むことが大事です。そして、私たちは自分の命を守ることを基本にしたうえで、子ども、高齢者、障がい者といった社会的弱者の命をどのように守っていくかを追求していかなければならないのです。

今回の総合防災訓練では防災フェアも開かれました。関係機関によるブースが設けられ、子どもから大人まで多くの市民が見学に訪れていました。そのブースの一つで、「災害時における外国人支援のあり方」を研究している仁賀保高校3年生 倉田菜々美さんが活動報告をしていました。その内容は災害時に取り残されがちな外国人たちのために避難場所や避難経路を視覚記号化したカードを作成し、それらをわかりやすく伝えていこうというものです。高校生である彼女が新たな視点で地域防災の向上を図ろうとする取組みと姿勢は、間違いなく、地域の防災力を継続的に高めていく大事な一歩になると私は考えています。

NIKAHO HIGH SCHOOL

秋田県立仁賀保高等学校 開校50周年記念連載〈第2回〉

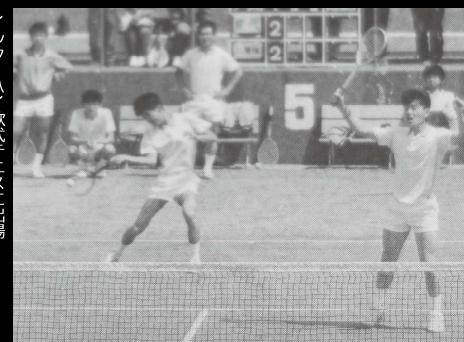
昭和52年（1977）4月12日、仁賀保町町民体育館で秋田県立仁賀保高等学校の第1回入学式が行われ、第1期生となる277人が旧平沢中学校を仮校舎として高校生活をスタートさせました。そして、同年11月10日に象潟町字下浜山の現校舎に移転してから、来年、開校50周年を迎える同校は令和9年（2027）11月9日に記念式典を開催します。

本市唯一の高校である仁賀保高等学校が開校50周年を迎えることを記念し、「秋田県立仁賀保高等学校開校50周年記念連載」として、5回シリーズで同校の歴史を振り返っていきます。第2回目の今回は昭和63年（1988）からの10年間を振り返ります。

1988 昭和63.	2. 4 8. 1 8. 26 10. 15	東北アンサンブルコンテスト金賞受賞（サックス四重奏） 兵庫インターハイ軟式庭球（佐々木・佐々木組）出場 山岳部東北大会出場 山岳部京都国体出場
1989 平成1.	2. 11 4. 1 6. 21 6. 23 8. 11	東北アンサンブルコンテスト金賞受賞（サックス四重奏） 6代校長に小松 恒信 氏が着任 全国高等学校放送コンクール テレビ課題部門出品 新体操部東北大会出場 山岳部東北大会出場
1990 平成2.	7. 27 9. 1 11. 21	放送部全国コンテスト朗読部門出場 山岳部 小松 仁啓 氏 東北大会出場 科学部 読売新聞社賞受賞
1991 平成3.	7. 25 7. 27 9. 7	全国高校放送コンテスト全国大会優秀賞 水泳部東北大会出場 細田 芳陽 氏 200Mバタフライ 陸上部東北大会出場 戸蒔 和義 氏 1,600MR
1992 平成4.	2. 9 4. 1 7. 25 7. 27 8. 20 8. 24	東北アンサンブルコンテスト銀賞受賞（木管七重奏） 7代校長に阿部 栄健 氏が着任 水泳部（細田氏）東北大会出場 放送部全国高等学校放送コンテスト出場 山岳部ミニ国体（岩手）出場 道路清掃活動に対し建設省東北地方建設局長表彰を受賞
1993 平成5.	2. 14 3. 20 7. 24 8. 20	アンサンブルコンテスト東北大会金賞受賞（金管八重奏） アンサンブルコンテスト全国大会銀賞受賞（京都市） 東北水泳大会出場 照井 一樹 氏 400M個人メドレー 山岳部ミニ国体（福島）出場 佐々木 俊之 氏
1994 平成6.	2. 13 8. 19	アンサンブルコンテスト東北大会金賞受賞（金管八重奏） 山岳部ミニ国体（宮城）出場 見留 氏・越川 氏
1995 平成7.	4. 1 7. 22 8. 5 " 8. 25	8代校長に猪野 均 氏が着任 水泳部東北大会出場 池田 憲史 氏 200M背泳ぎ 山岳部鳥取インターハイ出場 吹奏楽部全国高等学校総合文化祭（秋田県代表）文化奨励賞受賞 山岳部ミニ国体（秋田）出場 越川 博俊 氏（主将）
1996 平成8.	6. 14 7. 20	陸上部東北大会出場 松田 大助 氏 100M 200M 水泳部東北大会出場 池田 憲史 氏 100M背泳ぎ
1997 平成9.	4. 1 10. 3 10. 5	新制服制定（男女共ブレザー型） 創立20周年記念式典 陸上部東北陸上秋季大会 豊田 裕希 氏 走り幅跳び6位
1998 平成10.	2. 10 6. 21 7. 21	吹奏楽部アンサンブルコンテスト東北大会銀賞受賞（管打8重奏） 陸上部東北大会出場（福島市） 豊田 裕希 氏 110MH 放送部全国高等学校放送コンテスト テレビ番組第1部門出品

HISTORY

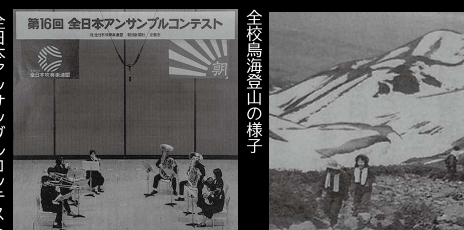
1988 - 1998



インターハイ軟式テニス出場



校内升論大会の様子



全日本アンサンブルコンテストに出場



全国高等学校総文化祭にて文化奨励賞を受賞



山岳部がインターハイ出場



校内外の環境美化活動に取り組む

50th anniversary
NikaHomeroom season4

市民と行政の架け橋 広報 にかほ 8